

大脇寺があった頃

(参考：新城市誌，八名郡誌，新城文化財案内，市教委文化課資料)

仏教が伝来したのは538年，聖武天皇の時代には東大寺の大仏，国ごとに国分寺，国分尼寺が建立され，仏教が庶民の間に広まっていきました。平安時代になると，最澄と空海によって新しい仏教がおこります。最澄は比叡山で天台宗を開き，空海（弘法大師）は高野山に金剛峯寺を創建（819年）し，真言宗を伝えました。どちらも山岳仏教の性格をもち，密教を取り入れています。密教とは，釈迦の教えを教典から学び修行して悟りを開こうとする顕教に対して，秘密の呪法の習得により悟りを開こうとするものです。天台宗，真言宗とも山中にお寺を建て，修行の場としたので，それまでの山岳信仰と結びついて，山伏の修行にみられるような修験道の源流となりました。

この真言宗が東三河にも広まった平安時代，この地方にも多くの寺院が建立されました。そのうち，鳳来寺に匹敵するような大寺院が，八名地区に何と三つもありました。それが，富賀寺，今水寺，そして大脇寺で，いずれも真言宗の寺院です。

富賀寺に残されている古文書には，次のように書かれています。

「八名井村吉祥山坊舎21か寺，庭野村紫雲山大脇寺坊中7か寺，当山坊中18か寺」（八名郡誌）

富賀寺が18の坊舎を持っていた頃が14世紀ですので，少なくともこの頃には大脇寺に7つの坊舎があり，栄えていたと思われます。吉祥山坊舎は今水寺のことで，21坊は村里にある寺を合わせた数のようですが，鳳来寺と並ぶ東三河屈指の大寺院だったことは間違いありません。今水寺の全盛期は鎌倉・室町時代だったと考えられています。その頃には，富賀寺も大脇寺も栄えていたようですので，八名地区の三つの寺院がそろって繁栄していた時代は，さぞ壮観だったものと思われます。寺院が栄えるということは，地域住民の協力も力になっていたはずで，当時の八名の人々がある程度の経済的，文化的水準にあり，強い信仰心などがあったものと考えられます。



薬師堂（市指定文化財）

大 脇 寺

(参考：新城文化財案内，野田郷1千年と大洞山)

薬師如来を本尊とした紫雲山大脇寺しうんざんに関する資料はきわめて少ないですが，近くには仁王門におうの跡も残っており，平安時代に繁栄していたことは確かです。中宇利の富賀寺に残る古文書に「庭野村紫雲山大脇寺坊中7か寺」と記録されています。

後の野田の戦い（1573年：元亀4）で武田軍のために焼かれたとの説がありますが，本尊の薬師如来だけが兵火をのがれ，現在に至ったものと思われます。

大脇寺へは，今の林光寺りんこうの前から向かいの丘に行く道が参道だったようです。それを行くと「仁王池におういけ」とか「仁王門跡」などと土地の人が言っている所があり，そこから薬師堂の向かいの山道ぼうがやに出ます。また，大脇寺の裏には「坊谷」「小坊寺」「貴照堂」などの地名がらんがあり，当時大きな伽藍が建ち並んでいたものと推測されます。

大脇寺については，記録がほとんどないので確かめようがありませんが，伝承では大脇寺は，野田の戦いの際に焼失したとされています。大脇寺だけでなく，富賀寺も全焼しています。また，右のように今水寺はじめ他の寺や神社も多く焼かれており，貴重な記録や文化財が失われたようです。

大脇寺が武田信玄に焼かれたことが要因で，再興されることなく衰退していったとすれば，実に惜まれることです。しかし，鎌倉時代に入って新しい仏教（浄土宗，浄土真宗，臨済宗，曹洞宗日蓮宗等）が次々と普及し，真言密教が次第に勢力を失っていく時期だったことも背景にありました。

この地方で繁栄した真言宗の大寺院

- ① 鳳来寺 本尊 薬師如来 702年開山
僧坊 真言宗方：10 天台宗方：11
- ② 富賀寺 701年創建 行基
1338年 足利尊氏
堂舎9，僧坊18 建立
- ③ 大脇寺 本尊 薬師如来（重文）=1171年
僧坊7 創建は不明
- ④ 今水寺 809年建立（鳳来寺山関係年譜）
僧坊12

信玄が焼き払ったとされる神社仏閣

今水寺 泉竜院 永住寺 建長寺 万福寺
永徳寺 徳願寺 能満寺
竹生神社 木舟神社 若宮八幡宮 野田八幡宮
河田八幡宮 国玉神社 須波神社 八幡宮
計16社 （野田郷の1千年と大洞山より）
これに富賀寺，大脇寺を含めると18社となる

重文・薬師如来座像

国の重要文化財 <薬師如来座像> 参考：新城文化財案内

平安時代に繁栄した紫雲山大脇寺しうんざんの本尊です。昭和17年（1942年）に大脇寺が廃寺となったため、林光寺りんこうじの所蔵となりました。平安時代末期（藤原時代）、嘉応3年（1171年）、仏師頼与よりよの作であり、像の高さ130cm、アスナロ材いちぼくの一木造りである。

像のつくりは、平安時代後期の像に共通した前後の厚みが薄い姿で、衣の線も穏やかな浅い切り口を示している。しかし、頭部には鎌倉様式へのめばえが見えている。例えば、眼の上下に強いうねりを見せ、ほおにはわずかに抑揚があるなど、個性的な表現が見られるのである。彫刻の特徴として、一木造いちぼくづくり（首と胴体が一本の木で造られる）、翻波式ほんぼしき えもん（衣文の表現に鋭いひだとなだらかなひだを交互に刻み、波形のようにくり返し表現する彫り方）がある。量感に満ちたふくよかで神秘的な雰囲気なたたえているのがこの時代の特徴とされており、大脇寺の薬師如来も、鎌倉時代の先がけといえる作品である。

昭和28年、解体修理がなされ、その時、頭部の内側に「嘉応3月正月15日云々」の銘文が発見された。また、後背こうはい、台座、及び薬壺やっこはその時、作り変えられたものである。制作時代と作者が明らかで、しかも、鎌倉時代への先がけの好例として注目されている。この薬師如来は通称「庭野のお薬師さま」で親しまれ、昔から病気に悩む人に信仰されてきたという。特に眼病に効果があると信じられ、ひらがなの「め」の字の連続で「め」と大書して治癒ちゆを祈願する人がある。



作り変えられた薬壺



重文 薬師如来座像

大脇寺・今水寺・富賀寺の歴史

<参考> 新城市誌, 新城文化財案内, 鳳来寺山関係年譜, 富賀寺の記録より

- 701年(大宝元) 富賀寺創建 行基開祖 小堂を建立 (真言宗高野派)
- 703年(大宝3) 鳳来寺創建 利修^{りしゅう} 仙人開山
- 809年(大同4) 八名井吉祥山腹に今水寺建立される
- 816年(弘仁7) **空海, 高野山に真言宗を開く**
- 938年(天慶元) 太政大臣藤原忠平が富賀寺の本堂・中堂・十二坊等を建立
- 1148年(久安4) 今水寺の慶寛法印が松鷲山花井寺(豊川市)を創建
- 1171年(嘉応3) 大脇寺の薬師如来を仏師頼与が彫刻した**
- 1227年(安貞1) 道元, 永平寺を開く 曹洞宗を伝える
このころから新城地方にも曹洞宗の寺院が多くなる
- 1338年(延元3) 足利尊氏, 富賀寺を再興, 堂舎9, 坊舎18ヶ所を建立
三千仏名宝塔図^{さんぜんぶつみやうほうとうず}を寄進
- 1382年(弘和2) 富賀寺の大般若経の写本ができた
- 1460年(寛政元) 大洞山泉龍院が創建された
- 1498年(明応7) 大地震がおこり, 神社・仏閣が多く倒壊。
- 1524年(大永4) 松鷲山花井寺(豊川市)が曹洞宗に改宗(1148年参照)
- 1530年(享禄3) 松平清康, 今水寺で休息後, 富賀寺に本陣を置き, 宇利城を攻める
- 1552年(天文21) 今川義元, 富賀寺へ所領安堵状
- 1560年(永禄3) 桶狭間の戦い このころ菅沼定盈, 今水寺延寿坊にて手習い
- 1561年(永禄4) 今川氏真, 富賀寺へ所領安堵状
- 1571年(元亀2) 菅沼定盈, 信玄に攻められ西郷に退くが, 野田城修復後戻る
- 1572年(元亀3) 家康, 三方ヶ原で信玄に敗れる
鳳来寺衆徒御陣見舞い, 甲冑をつけ御本陣相勤む
- 1573年(元亀4) 信玄, 野田城を攻略する 富賀寺全焼(住職:近藤忠用次男)
4月12日 甲府への帰途, 信州伊奈郡駒場にて死亡
- 1575年(天正3) 長篠・設楽原の戦い
このころ今水寺の12坊は衰退し, 延寿院のみ
- 1579年(天正7) 野田城主, 定盈 中宇利八幡神社創建
- 1589年(天正17) 今水寺領検地(源頼朝, 今川義元の名) 翌年太閤検地
- 1590年(天正18) 菅沼定盈 上野国阿保へ移封される 1万石
- 1603年(慶長8) 家康, 征夷大將軍に
今水寺 延寿院, 文禄年間(1592~1596)か慶長の初年ころに廃滅
徳川時代まで残ったのは, 熊野三社と観音堂のみ
- 1755年(宝暦5) 大洞山泉龍院が今水寺の再興を図るも, 富賀寺に断られる
- 1828年(文政11) 富賀寺が今水寺跡に延寿院を再建
- 1873年(明治6) 今水寺 明治維新で廃却となる
- 1931年(昭和6) 庭野大脇寺の薬師如来座像が国宝に指定された。
- 1942年(昭和17) 大脇寺が廃寺となる。薬師如来は林光寺所蔵となる。